

2022 年の年明けとともに感染第 6 波が襲来し、特に子どもたちに広がっています。保育の体制確保が難しく、休園ならずとも保育の継続が難しい状況が続いています。

この 2 年間、行事や活動を制限せざるを得ない状況が続いています。2 歳以上にマスクをという提言も出ました。みんなで集まって楽しい活動もできず、人の顔の半分がマスクで覆われた中で育つ子どもたち、表情の乏しい子どもになってしまうのでは？コロナ禍が子どもたちの成長に及ぼす影響が心配です。

コロナが終息したら、子どもたちとじゃれあったり、いろいろな行事を企画したり、もっと楽しい保育園をつくりたいと思いを馳せつつ、この厳しい時期を乗り越えたいと思っています。



保育の質が問われる時代、最低基準の引き上げを

★認可保育園の定員割れが広がる・・・

2022 年 4 月の認可保育園入園申請の結果が発表されたばかりですが、全年齢で欠員が出ています。昨年より私立保育園が 12 園増えています、欠員は昨年より約 400 名増の 1874 名です。

コロナ禍の休園とその後の保育の中で私たちが感じたのは、保育室が広がったら、少人数のクラスだったら、密を避けつつ、子ども同士ゆったり関わりあったり、保育者も子ども一人ひとりの思いに寄り添いじっくり向き合う保育ができるのということでした。

日本の保育士配置基準は、各国と比べると大きな差があります。子どもの人権を尊重した保育とい



う意味でも、この格差は大きすぎますね。

保育園の欠員が生じている今こそ、保育基準を改善するいい機会ではないでしょうか？

【世界の保育基準】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
日本	3:1	6:1	6:1	20:1	30:1	30:1
アメリカ	4:1		5:1	7:1	8:1	9:1
イギリス	3:1	3:1	4:1	8:1	8:1	9:1
フランス	5:1		4:1		13:1	
ドイツ			6:1		13:1	
スウェーデン			上限14人に職員3人		13:1	
ニュージーランド		5:1		1~6人:1 7~20人:2	21~30人:3 31~40人:4	

コロナ禍で少子化が 10 年早く進むのではと言われています。待機児問題に代わって、保育の量よりも質が求められる時代となっていくでしょう。

ともそだちネットのこれから

★ゆりかごの家、さくらんぼ保育室閉園

ゆりかごの家は、1970 年、亀戸 2 丁目団地のなかで誕生し、2006 年に認証保育所に移行しました。あわせて 50 年間、たくさん子どもたちと出会い、認可保育園に送り出してきました。さくらんぼ保育室は、2007 年、江東区の待機児が 1000 名を超えていた頃に、少しでも待機児解消の役に立てればと大島 6 丁目団地のなかで誕生しました。

今年度末をもって両園はその役割を終えることとなりました。地域の方々や OB の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

★認証保育所から就学前までの認可保育園へ

ひまわり保育室とつくしの家保育室は、認可保育園への移行を計画しています。ともに 50 年前に保育園がなくて困ったお父さんお母さんがつくった小さな保育室でした。長年の乳児保育の実践をさらに広げ、5 歳児までを見通した保育園へと成長発展していきたいと思っています。

保育の質が問われる時代だからこそ、ともそだちネットの保育をわかりやすく伝えていけるよう、保育園からの発信を工夫していきたいと思っています。

これからも、ご支援をお願いします。



陽だまり保育園 『ブロック』

3歳児（くま組）《デュプロ》 みんな大好き。想像力も豊かで、パトカー・恐竜・ディズニーのお城まで壊しては作り、壊しては作りして楽しく遊んでいます。



4歳児（ぱんだ組）《レゴ》 ごっこ遊びが盛んで、人形を作ったり、一つのブロックを人に見立てて、保育園・家・ホテルなどの場所を作り、細かいパーツのブロックも使っています。



5歳児（らいおん組）《レゴ》 女の子たちは家作りに夢中。お部屋のレイアウトを細かい所まで考えて作っています。男の子たちはレゴ板を使って道路・街作り。オリジナルの武器や飛行機などの乗り物も登場。男の子と女の子で遊ぶ姿もあり、共通の物語をイメージして遊んでいます。

ひまわり保育室 『パズル』



1・2歳児（ぱんだ組）は、電車や車が大好きな子どもたち。新幹線やはたらく車のパズルが大人気です。パズルは、はめ込むのに指先のちょっとした動きや力加減が大切！油断してしまうとうまくはめ込むことができません。また、形を認識することも大事で集中力も養うことができます。そんな中で 30 ピース以上のパズルを自分で完成させる子もいたり、「できない」という子に「こうやってやるんだよ」と教える姿もあります。



つくしの家保育室 『ままごと』

「ピーンポーン」「どーそー」1・2歳児のお気に入りの遊びはおままごとです。年間通していつも遊ぶ大好きな遊びの一つです。子どもたちは成長する過程で周りの環境をどんどん吸収していきます。そしてそれを自分の手足を使って真似することは、生き方を学んでいくプロセスと言えるでしょう。



お家みたいだね！

あ〜ん！



ねんねしようね〜

この日は椅子をお家のように囲ってお人形にご飯を作ってあげています。職員が遊びに行くとデザートを振舞ってくれるのです！お人形のお世話もお手のもの！まるでお父さん、お母さんのようですね。



今回は、各保育室でよく遊んでいる遊び、子どもたちが夢中になっている遊びの特集です。陽だまり・あゆみは幼児クラス、ひまわり・ひよっこ・つくし・ゆりかごは乳児クラスの遊びをご紹介します。

あゆみ保育園 『LaQ（ラキュー）』



4・5歳児（たいよう組）になると、《ラキュー》というパズルブロックに夢中になります。ラキューは、小さくて少し複雑な形のピースを組み合わせていく遊びです。使いやすいように、色別に分けておきます。卒園する頃には、写真を見て説明書なしで作れたりも！毎年ラキュー名人が登場しています。



ひよっこ保育室 『指先遊び』

遊びを通して手指の動きや見通しを持って楽しいことを待つ経験が取り入れられる玩具を作りました。

《タオルストッカーの玩具入れ》のぞき窓があるので中が分かりやすいこと、上下から手を入れて玩具を取り出すことが出来るので、ボールやオーガンジーなどを入れて指先の感覚を刺激し、掴む・摘まむ・引っ張る、目標に向かって物を入れる（手と目の協応）などを育てることが出来ます。



とれた〜！

《ペットボトルのリングウェーブ》上下にひっくり返して中のリングを動かす事で追視を楽しんだり、決まった動きを見ることで安心感を得る事ができます。まだ自分でできない子は、保育者や年上の子が動かしているのを見て楽しんでいます。



やってあげる

キラキラ動いて

ゆりかごの家 『うんどう遊び』

赤ちゃんの運動発達にはハイハイが必要不可欠！
 言うことで腕だけでなく、腹筋・背筋・足など、体中のあらゆる筋力や運動神経を育てて、歩行にむけて準備をします。
 そこで、ハイハイの練習を兼ねた遊びを取り入れています。



布団の山を作り、興味を引くおもちゃを視線の先に置いて、「前に進みたい」気持ちを引き出しながら足腰を鍛えられるように配慮しています。ぜひお家でたくさん体を使って遊びたいときに試してみてください。





ともそだちネット 法人研修(後半)



2021 年後半、ともそだちネットでは 3 つの法人研修を行いました。準職員・パート職員向け研修では「子どもの人権」について学びました。保育実践研修も、連続講座の中で大いにスキルアップにつながりました。そして主任部会主催の事例検討研修は、主任たちが全員で受けたファシリテーターの研修を生かして、会の進行を工夫しました。

保育実践研修 9 月

「保育のチカラ」

～自主性・主体性の保育実践～

(講師：須賀義一氏)

須賀先生の 2 回シリーズの保育実践研修第 2 弾は子どもの自主性・主体性をテーマにお話しいただきました。そもそも主体性とは何か？ まだまだ大人が主導で保育を進めてはいないか？いろいろな場面で具体的に教えていただきました。

(参加者の感想)

いや！という時の子どもの気持ちを考えてみなければいけないとわかりました。

『いやいやの“NO”は、自立の第一歩』



準職員・パートさん研修

10・11 月

「ひとりひとりを大切にする保育」

～子どもの人権を尊重するとは～

子どもを大切にするということは、子どもの人権を尊重することです。では、子どもの人権を尊重するとは？ 具体的に「子どもの権利条約」を参考にしながら、自分たちの保育の事例にあてはめて学びました。いつもそれを意識して子どもたちと過ごしていきましょう。

「子どもの権利条約」は次の 4 つです。

- ① 生きる権利
- ② 育つ権利
- ③ 守られる権利
- ④ 参加する権利



事例検討 11 月

「子どもの生活と遊び」

～大人の関わり方と配慮～

今年も法人内の 6 つの施設から映像を持ち寄って、それを見ながら話し合いを行いました。食事や遊びの場面での大人の関わり方は、自分とは違う方法や考え方を知る機会となり、さらに他者の意見も聞くことで保育観が深まっていきました。

法人全体の保育力アップにつながる研修となっています。

(参加者の感想)

・映像で見ることで、室内環境や保育者の関わりがよくわかった。

・映像の場面の説明を最初にプリントで読んでおくことができ、状況が伝わりやすかった。

・自分が悩んでいる場面での対応が参考になった。



特別支援児研究会 9・12・3 月

年に 4 回、各園から 1 名ずつ集まって配慮が必要な子どもたちの対応について学んでいます。アドバイザーの笹原きよみ先生に専門的な視点での捉え方、保育の中での関わり方について教えていただいたり、保育者同士交流しあうことができ、とても参考になり、日々の保育に生かしています。



< 編集後記 >

一時期東京都のコロナ感染者は 2 桁まで下がり、安心してたのもつかの間、オミクロン株が猛威をふるっています。コロナ禍の過ごし方も定着してきました。制限されることはありますが、子どもたちに毎日「きょうも楽しかった！」と言ってもらえるよう、創意工夫を凝らしながら大人もまた笑顔で過ごしていきましょう。(高)